

2018年(平成30年)

第126号

(6月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

第7回こころひとつにフェスティバル ～地域のお祭りとして定着化～

5月20日(日)、京都教会において「第7回こころひとつにフェスティバル2018」が開催され、多くの青少年部員及び会員が参加しました。

今年の青年の日は、法座席において憲法学習会が行われ、その後手作り販売コーナーや古着、物品販売を展開。

教会敷地内では手作りパン、白玉団子の販売のほか、焼きそばが近隣住民の方々に無料で振る舞われました。また、同時並行して動物園前では少年部が中心になり、ユニセフ街頭募金を呼びかけました。

京都教会のテーマは「さあ、やってみよう!」。数ヶ月前から青年部が中心になって準備を進めてきました。その間、地域の方々から「今年もバザーはありますか?」と聞かれ、粟田学区自主防災会長からも同様の問い合わせがあり、過去6年間の継続した取り組みが、地域にも浸透してきた様子を伺い知ることが出来ました。

特に、2012年に京都教会が東山区粟田学区の避難所に指定されたこともあり、このフェスティバルが地域のお祭りになるべく、近隣の方にも開かれた教会づくりを目指してきました。

開会式では佐藤教会長から「まず人さま。目の前に人に喜んで頂けるようにすることが、こころがひとつになれる秘訣です。まずはやってみましょう」との心構えがあり、その後行われた憲法学習会では、全員が法座席に着座し、「憲法とは何か・日本国憲法と法律の違い・立憲主義の意味・第9条の自衛隊明記の是非」

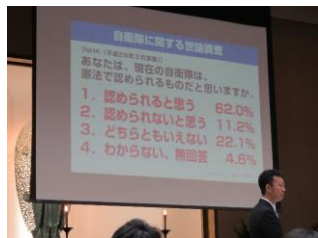


などについて、マンガを用いた説明がありました。最後に「党派にこだわらず、平和憲法を守ることができる議員を増やすことが重要」と、結ばれました。

学習会後、法座席においてカラオケコーナー・手作り販売コーナー・古着や物品販売などを実施。飛び入り参加のカラオケでは、自慢ののどを披露する会員で笑いが絶えませんでした。館内では姓名鑑定やハッピーリング相談コーナーも行われ、敷地内では手作りパン・白玉団子・ジュースの販売のほか、カプトムシの販売もあり、子供たちの目を引いていました。

模擬店終了後の閉会式では、参加者が一つの大きな円になり、祈りのことばを唱和、そして黙祷。佐藤教会長は「みんなが人が喜ぶことを心掛けて行動されたことで、多くの人に喜んで頂けた」と、感謝の言葉を述べ、閉式となりました。

売り上げ金 360,072 円は、全額一食ユニセフ募金に寄附させて頂きました。



最近まちなかでは、やたらとホテルや民泊の建設ラッシュ状態です。京都は観光都市であり、世界中から来られる観光客に良質の宿泊施設を提供することは大切なことです。▼京のおもてなしを味わった人たちが京都を好きになってもらうことで、評判になり、観光客が増えていきます。そうなれば、地域の活性化にもつながることでしょう。▼しかし、管理者不在型の民泊は、宿泊者のマナーの悪さに、近隣住民とトラブルを起こすケースが多く、こうした施設の建設を好まない住民も多くなってきています。▼仏教に誰でもできる慈悲の実践として「無財の七施」という教えがあります。その中に、自分の家を提供する『房舎施(ぼうじゃせ)』があります。来客に対して温かくおもてなしをすることです。▼周りの人や旅行者に喜んでもらうこと、自己を高めることができると言われます。業者はもちろんのこと、地域・京都全体で、人々を心温かく迎えるようにしたいものです。

時事刻々

平成30年、私たちは「勇気をもって 私らしく やってみよう」を実践して参ります。

今月のことば ～踏みとどまる～

本部参拝 参加者から

6月1日に、京都教会から100名の会員が本部に参拝しました。特に大聖堂での式典では、西田浩也・京南支部壮年部長が体験説法をされたこともあり、大勢の皆さんが東京までお参りに行くことが出来ました。

今月の機関誌『佼成』では「踏みとどまる」というご法話を会長先生から頂きました。この度のご本部参拝に参加された幹部の方々のお話をもとに、今月号では次の通りまとめました。

弟の退院後の介護施設を、病院の近くにある付属の施設と、病院まで距離があり緊急の場合は家族が駆けつける必要がある施設の2つをご紹介頂いた。その中で、私にとって都合の良い前者に魅力を感じたが、自らの都合を優先している自分に気がつき、踏みとどまり、弟本人の意思を尊重しようと思い直し、確認した結果、後者となった。(総務部長 竹岡千賀)

長距離移動が大変なのではないかと思われる方々の参加のおかげさまで、それぞれの心を省み、自己都合を踏みとどまり、団参加者がお互いに譲り合いの心を発揮することができた。(洛叡支部長 松田裕紀子)

団参加の参加を当初納得できなかったが、高齢者に寄り添い、ご自身の時間を使って奉仕をされている方の姿に触れ、また何事もなかったかのように振る舞われているその方のおかげさまで、自分が相手に要求しようとしていることに気がついた。お役(役割)は菩薩になるための修行と大らかに受け止め、今月13日から予定されている、高齢の方々をお世話する機会に活かします。(総務スタッフ 植田安希子)

朔日参り・朝6時からの読経供養のあと、本部・総務部長さんの「怒りのピークは6秒であるから、一呼吸おいて踏みとどまることができる」というお話を聞いて、お題目を唱えるのもおおよそ6秒なので、それを唱えることは有難いことと学んだ。(亀岡支部長 有馬弘枝)

90才過ぎの高齢者2名が支部から参加してくださいました。その中のお一人と聖堂の法座に座った。その高齢の方が法座途中で、長い時間となりイライラし立ち上ろうとされた時、一呼吸(6秒)おくことをお伝えしました。すると、その高齢会員は、難しいと言いながらも、踏みとどまったのでした。その体験を今後も、活かしたいと言ってくれた。(京洛支部長 荒賀千陽)

団参責任者だったので、いろいろな注文を沢山お受けした。しかし、ここで踏みとどまろうと思い直し、おかげさまで思いやりの心を以って大役を務めることができた。(乙訓支部長 豊田陽子)

お説法者の奥さんが豊島教会出身であるため、ご主人の大聖堂説法を聞かれた豊島の信者さんが、京都の奥さんへわざわざ電話をかけて下さった。ありがたくつながるご縁でした。親子や家族(特にご主人)が居て下さることが、いろいろ踏みとどまる種になっていると気づいた。(京南支部長 石田恭子)

入院中のご主人は、6月3日以降の退院予定であったが、本部参拝から京都に戻ると、6月2日にご主人が退院を希望された。しかし、「諸々の予定があるため難しいのに・・・」と思いつつも、踏みとどまり、病院側に問い合わせると、ご主人の希望通りのお手配を頂けた。(戒名室長 阪尾高世)

本部ホームページが刷新

4月8日より本部ホームページが刷新されました。
(<http://www.kosei-kai.or.jp/>)
トップページの「仏教のすすめ」から「2分で仏教」「2分で立正佼成会」「遙かなる東へ」を見ることが出来ます。



2分で仏教
何を伝えたいのか



2分で立正佼成会
立正佼成会って何?



「2分で仏教」は仏教のことを2分で語ろうというもの。仏教の始まりと経緯、ブッダの思いや願いを動画で知ることが出来ます。

「2分で立正佼成会」は不思議キャラ“苗代くん”が立正佼成会の早わかりガイドをナビゲートします。「遙かなる東へ」の第1回ではブッダ誕生から成道までが描かれています。

式衆儀礼儀式勉強会 ～京都&金沢教会のサンガで切磋琢磨～

5月12～13日に、京都・金沢教会式衆儀礼儀式勉強会・交流会が京都教会法座席及び体育館で行われました。

12日早朝に金沢教会を出発した一行は京都教会到着後、間もなく儀礼儀式勉強会を開始しました。鐘・木鉦・太鼓の各パートに分かれ、京都教会の本部聖友会を中心とするメンバーから指導を受け、熱心に練習を取り組まれました。

その後は、聖壇上での出入りや作法の練習も行い、

夕方6時から金沢教会の方だけで聖壇のお役を構成、読経供養を行いました。

夜には体育館に移動し、聖壇式衆懇親会を開催。おやじバンドの演奏が始まるとダンスを踊り始めるなど、終始和やかな雰囲気でした。

13日は朝6時のご供養から金沢教会で聖壇を担当。朝食後は次行程の比叡山延暦寺へ移動されました。短い間でしたが、切磋琢磨しながらサンガの繋がりを感じられる2日間でした。



京都明社 第3回清掃ハイキング ～晴天のもと天智天皇陵をスタート～

5月27日(日)に京都明社主催の第3回清掃ハイキングが晴天のなか開催されました。初回は伏見稲荷、2回目が嵐山、今回は緑が薫る季節に山科区での実施となり、老若男女総勢35名が参加しました。集合場所は、中臣鎌足と一緒に大化の改新を起こした中大兄皇子の眠る天智天皇陵前であり、改めて歴史の深い街である事も感じました。冒頭、京都明社鈴木委員長の、「清掃という行為だけでなく、しっかりと心も綺麗にする一日にしましょう。」との挨拶のもと清掃ハイキングはスタートしました。今回のコースはたいへん整備されていて、ほとんど目立つゴミはなかったため、参加者一同奪い合うようにゴミを拾うことになりました。

また、疎水沿いの緑のトンネルを抜けながら、自然

を感じ、仲間とじっくりとコミュニケーションをとる絶好の機会となりました。途中、びわ湖疎水船にも遭遇し、みんなでお見送りもしました。ゴールは最近リニューアルした疎水公園で、記念撮影のあと参加者で昼食をとってお開きとなりました。

次回は2018年秋、京洛明社幹事での開催予定です。



日常生活の中の仏教用語 ～えっ?こんな言葉も仏教が語源?～

今年から始まった新コーナー。言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【八面六臂(はちめんろっぴ)】

さまざまな種類の仕事や大量の仕事、ひとりで手際よく処理すること、それができると、何人分もの働きをすること。「八面六臂の大活躍」などと使う。

「面」は顔、「臂」はひじの八面六臂こと。ひとつの体に、顔が八つ、ひじが六つ、つまり手が六本もあれば、たくさんの仕事がこなせるだろう。

これは、いろいろな悩みや願いをもつ人を救うため、複数の顔や手をもつ仏像の姿からきたもの。しかし、実際の仏像には八面六臂のものはなく、阿修羅像の三面六臂、如意輪観音(にょいりんかんのん)像の一面六臂などがもとになったと考えられる。

(「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋)

記事募集のお知らせ

読者のみなさんから記事や写真・絵を募集します。年齢、性別は問いません。教会までお送り下さい。

- ・ゴールデンウィークの思い出
- ・父の日にちなみ、お父さんの似顔絵

庭 野 日 敬 開 祖 法 話 集

今月、京都教会では「水子供養」が営まれます。「女性」「子育て」「夫婦」の在り方について、庭野開祖の法話から学んでみたいと思います。
(編集部)

【女性の力】

若い娘さんが都会にあこがれて、生まれ育った故郷を捨てて出ていってしまうと、男性も居着かなくなってしまう。女性にとって魅力的な町づくりが最大の過疎化対策だという説を聞いたことがあります。なるほど、とうなずかされます。

信仰でもそれがいえるのです。女性が教えに目覚めると、たちまちご主人が教化され、子どもさんも、仏さまに手を合わせるようになってきます。

逆に、ご主人が信仰をするようになって、奥さんが本気になるまでには、なかなか時間がかかることが多いのです。女性はそれだけの感化力を持っているわけです。

日蓮聖人は、「矢の走るは弓の力、男のしわざは女の力」とおっしゃられ、その女性の力は、「物に随(したが)って物を随える」力だと教えられました。

男をよいほうに走らせるか悪いほうに走らせるか、社会をよいほうに向かわせるか悪いほうに向かわせるか、女性がカギをにぎっているともいえます。まず女性に目覚めてもらわなくてはなりません。女性は社会を変え、世界を変える力を秘めているのです。

【心の壁をくずす】

女性にとって、子育ては大事業です。心配と苦勞の連続で、それだけに、手ごたえも喜びも大きいのですが、さて一人前に育て上げたあとホッとすると、見知らぬ相手が現われて、手塩にかけたかけがえのない娘や息子を連れていってしまう。

お嫁さんのアヲを並べたてるお姑さんの気持ちの根っこに、自分が育て上げた宝物を横取りされたような悔しさがあるような気がするのです。そういう悔しさが根っこにあると、相手のすることなすこといちいち気に入らなくなってしまうわけです。

そこで逆に、「この息子のところへ、よくお嫁さんに

きてくれた」と、こちらの気持ちを切り換えてしまえば、「若いだから、いろいろ未熟なのは当然だ」と、教えてあげる言葉にも、感謝といったわりの思いがこもってきます。まず、にらみ合いの壁を打ちくずしてしまうのが先決です。

初めは形だけでもかまいません。互いに、いいところを見つける努力をして、ほめ合う。すると心の中の壁がとれて、気を許し合えるようになります。

女性同士の理解が生まれ、理解し合えると、なによりも力強い味方同士になってしまうのです。嫁と姑の平和共存も心の持ちようひとつです。

【見捨てない愛】

夫婦の愛をぎりぎりまで突き詰めていくと、それは相手を見捨てないこと、といえるのではないのでしょうか。見捨てないためには、許しが必要なのです。

どんなに好き合った相手でも、毎日、朝から晩まで鼻を突き合わせていると、だんだんアヲが見えてきます。それにいちいち目くじらを立てて、性格の不一致などと言いつついたら、とても添い遂げられるものではありません。

それまで他人だった男女が一つになろうというのですから、初めからなにもかも分かり合えるはずがありません。どうしたら心をつにして助け合い、支え合っていけるようになるか、互いに努力し合い、人間として成長していくのが結婚生活というものでしょう。

最近は、結婚したくてもできない男性が増えて、「女性のほうが売り手市場で、男性が女性に合わせていかなくてはならない時代になった」などと、しょげている人がいますが、どちらがどちらに合わせるなどと、時代によって変わるものではありません。

男と女のそれぞれの特性、考え方を認め合うところから、許し合う寛容さが生まれてくるのだと思うのです。
(つづく)

6～7月の主な教会行事

6月1日(金)	9:00～	朔日参り
4日(月)	9:00～	開祖さまご命日
10日(日)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(金)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
24日(金)	9:00～	水子供養
7月1日(日)	9:00～	朔日参り
4日(水)	9:00～	開祖さまご命日
10日(火)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(日)	9:00～	孟蘭盆会・釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

6月12日は米朝首脳会談が実現するのか、どのような会談になるのか、世界が注目しています。数ヶ月前まで一触即発だった両国が対話路線へ転換しています。それは米国の貿易制裁に効果が表れたからという見方もあるようです。

完全非核化を目指す米国と金体制を維持したい北朝鮮。最悪、軍事オプションも残されているという現状。懐の中に常に大きな刃物を持ちながら笑顔で対話する米国が見え隠れします。